

第4回加古川市かわまちづくり協議会 会議録

日 時	令和4年8月26日(金) 午前10時15分 から 午前11時 まで
場 所	加古川市民交流ひろば 会議室1
出席者	<p>加古川市 岡田市長(議長) 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 山田所長 加古川商工会議所 釜谷会頭 大阪公立大学大学院農学研究科 武田准教授 加古川漁業協同組合 成川副組合長(代理) 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所まちづくり担当 松尾参事(オブザーバー)(代理)</p> <p>国土交通省近畿地方整備局河川環境課 寺谷係長 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 小林河川管理第一課長 // 上田調査課専門官 // 笠井調査課職員</p> <p>加古川市 川西副市長 市民協働部 大歳部長 // 栗山次長 建設部 中務部長</p> <p>【事務局】 市民活動推進課 山野かわまちづくり推進担当課長、西川副課長、 村上係長、澤中主事 治水対策課 乾かわまちづくり推進担当副課長 公園緑地課 中居かわまちづくり推進担当副課長</p>
傍聴者	2人
<p>■会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料① 第4回加古川市かわまちづくり協議会出席者名簿 ・資料② 加古川市かわまちづくり協議会設置要綱 ・資料③ 国土交通省発表資料(抜粋) ・資料④ 今後のスケジュール(案) ・資料⑤ 令和4年度協働のまちづくり推進事業補助金(テーマ設定型) ・資料⑥ かわまちづくり社会実験「加古川 de リバー kitchen」チラシ ・資料⑦ かわまちづくりワークショップ(かわのまちマーケット)資料 <p>■会議要旨・質問・意見</p> <p>1 加古川市かわまちづくり計画の登録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 資料③に基づき事務局(市民活動推進課かわまちづくり推進担当課長)が説明。 ➢ 第3回協議会で報告した計画(案)からの主な変更点は、重要業績評価指標(KPI)の設定(P7)の変更のみであり、「加古川市かわまちづくり計画」(以下「計画」という。)を令和4年3月29日に策定した。 ➢ 計画は令和4年5月9日に国に申請し、同年8月9日に国に認証を受けた。 ➢ 令和4年度は、全国で加古川市を含め新たに8箇所の「かわまちづくり計画」が登録され、全国で合計252箇所となった。登録を受けた後、約5年をかけて国・市の役割分担のもと、護岸等の整備を進める。ソフト面では、河川内で民間企業等が営利活動を行えるよう「河川空間 	

のオープン化」を目指す。

(質問・意見)

なし

2 今年度の取り組みについて

- 事務局（市民活動推進課かわまちづくり推進担当課長）がパワーポイントを用いて、今年度のこれまでの取り組みを説明。

(質問・意見)

武田准教授： 先程、計画の登録証の伝達式が行われたが、国から市への伝達で終わるのではなく、情報を市民へしっかりと伝達していくことが重要である。新聞折込チラシの配布も一回限りではなく、事業の進捗など、盛り上がりをもさらに高めていけるように、継続的な情報の伝達が大切である。
また、加古川市の次世代を担う子ども達への教育学習も必要である。中学生や高校生への教育的な要素を含めたシンポジウム・ワークショップを実施することで、情報の共有や伝達に繋がるのではないかと考えている。

岡田市長： 他の広報物でも同様で、一回だけでは伝わりにくいと考える。全市民に届けるためには、重ねて広報する必要があると考える。本市の未来を明るくするニュースになるので、継続してしっかりと伝えていきたい。
また、今後、ハード整備に着手し、本市の新しい魅力を作り上げていく大切な段階に、次世代を担う中学生や高校生に関わっていただきたいと考えている。かわまちづくりの取り組みを知ってもらう方法や関わり方について、教育委員会とも相談していきたい。

山田所長： 昨年度から加古川市協働のまちづくり推進事業補助金を活用し河川敷で実施するイベント（以下「補助金イベント」という。）を多くの市民活動団体等（以下「団体」という。）が開催されているが、それぞれの団体がお互いに連携し合うことで生まれた新たな取り組みがあれば、具体的に教えていただきたい。

事務局： 昨年度に引き続き、今年度も21団体から応募があった。今年度に応募いただいた中には、昨年度も応募された団体や、昨年度は参加者だったが、今年度は主催者として団体を設立された方もいる。毎年、補助金イベントを実施する団体同士が繋がることを目的に連絡会議を設けており、その中で、「一緒にイベントを開催しよう」などのアイデアの共有や事業の実施方法の相談など、先行してイベントを開催する方が、後に続く方に助言するという流れが出来てきている。また、他の団体のイベントを、裏方として手伝うといった関係も出来つつある。このような良い流れや関係性をさらに高めていき、より良い事業に繋げていきたいと考えている。

成川副組合長： 次世代を担う小学生や中学生の子ども達は、川は危ないところだという認識がある。かわまちづくりを進めるにあたり、小学生や中学生に、これからも加古川を大事にしたいと思ってもらえるように、川はルールを守れば楽しく遊べる場所だということを知ってもらい、川を身近に感じてもらえるような体験や学びを組み込んだイベントを実施しても良いのではないかと考えている。

岡田市長： 加古川という川の名前が付くまちであるが、ほとんど川での遊びや体験ができないままになっている。今後、ハード整備がすべてゾーニングイメージ図どおりに進めば、わんどが整備され、加古川でSUPやカヌー等が楽しめるようになる。

事務局 : 各イベントの主催者が作成したイベントのチラシを、教育委員会に依頼し各学校園の配布文書として各家庭へ配布している。昨年度から広報活動を積極的に行うことで、補助金イベントを知り、実際に参加・体験することにより、カヌーやSUP、気球の搭乗体験、スケートボードなど、加古川で遊んだ記憶や経験が、今の小学生や中学生の認識として、まずは広がっていけば良いと考えている。その先に、体験や学びとなる取り組みについても教育委員会と協議して実施していければ、加古川を大事にしたいと思ってもらえることに一歩ずつ近づくのではないかと考えている。

岡田市長 : 川が危険な場所だという認識は、過去に事故が発生したからだと思う。使用していただく以上は、いかに安全に使用していただくかが大切である。安全面も含めてかわまちづくりを進めていきたい。

3 今後のスケジュールについて

- 事務局（市民活動推進課かわまちづくり推進担当課長）がパワーポイント及び資料④・⑤・⑥・⑦を用いて、今後のスケジュールを説明。
- キッチンカーを集めた社会実験は7日間（9/17、10/1・2、10/9・10、10/15・16）実施する。
- ワークショップは今年度3回（①8/28②9/25③10/23）実施し、3回目の10月23日（日）に加古川駅と加古川のつながりを社会実験（かわのまちマーケット）として確認する。

（質問・意見）

武田准教授 : かわのまちマーケットの開催はとても良い取り組みだと思う。かわまちづくりの趣旨として、「かわ」だけが盛り上がるのではなく、「まち」との一体性や回遊性が生まれ、「かわ」と「まち」が繋がっていくことが大切である。河川敷だけでなく、「まち」の賑わいが「かわ」へと伸びていき、できれば地元の事業者が河川空間でも商売をしてみたくなるような仕組みを作っていくことが重要だと考える。

次に、ハード整備を進める中で、昨年度や今年度に補助金イベントを実施している団体の意見をできるだけ聞き取り、ハード整備に反映していくことが重要だと考える。特に、民間事業者を公募して盛土予定地に設置する新しい施設について、全てを民間事業者の提案に任せるのではなく、条件等により今までの取り組みを十分に理解していただき、景観面や環境面、地域の賑わいも考えていただけるように示すことが重要であると考えている。

「かわ」と「まち」を繋ぐために、計画の事業だけでなく、関連付けられそうな既存事業等とできるだけ連携していくことが大切だと考える。他の事業との連携を新たに加えることで、さらに加古川市としての魅力アップに繋がるのではないかと考える。

事務局 : 補助金イベントを実施される中で、主催者の方からの声として、実施後の改善点や要望などをいただくことが多々ある。こうした意見を大切に、公園管理者や補助金イベントの団体等と相談しながらハード整備を進めていきたいと考えている。

次に、他の事業との連携に関しては、本市政策企画課が中心となり進めている駅前の活性化プロジェクトチームとも庁内連携しながら、相乗効果が得られるよう、かわまちづくりを進めていきたいと考えている。

4 その他

なし

以上